われらは成人一年生

成人の自覚を

明治学院大　佐野秀樹（西国窪）

敗戦の色濃い、昭和二十年二月満州の新京で生まれた私は、尊い人間の生命さえ奪う恐ろしい戦争や、敗戦後の混乱を知るよしもないが、当時の苦しみを父母や人々に聞かされるにつけ自分が現在成人の日を迎える年令に達した事を思うとき、感慨無量なものがある。

敗戦後の日本は、あらゆる面で古い制度は一掃され新しい息吹きのもとに、成長を続けている、このような変化の著しい社会とともに育ってきた私たちは、一度自分自身を見つめ、成人になった自覚のもとに、責任ある行動と与えられた道を最善をつくして進みたいと思う。

古いものと、新しいものとの混乱期に、良いものを追及し、住みよい社会建設の捨て石になりたいと思う。

さらに親の力、社会の力があったことを忘れずに、少しでも報いるよう努力しなければならない。そして与えられた人生の設計を、悔ゆることのないよう樹立したいと思う。

着実に経験…

横浜市大　川口貴明（東滝川）

正直なところ、成人としての実感がわいてこない。しかし現実は二十才になると成人として扱かわれ、↘思慮分別を持ち責任ある行動のできる人間として、飲酒喫煙が認められ、選挙権を得て、国の政治に関与できるなど種々の名誉や権利が与えられると同時に責任と義務が要求される。

それは僕にとつて嬉しいことであり、誇らしいことであるが、二十歳の今日まで学校生活に費し、なお二年の学業を背負つているので、社会的経験にとぼしく視野も狭い。成人になつたとはいえまだ実質が伴なつていないし、まだまだ多くのひとから学ばねばなりません。

しかし、あわてて背伸びしすぎないように、一歩一歩着実に経験を重ねて、社会の情勢をキャツチし、視野を広げ、与えられた〝おとな〟でなく、自ら形成する〝おとな〟になつていきたい。正々堂々と二十歳の一人の人間として……。

成人を迎えられるみなさんおめでとう。「二十歳になつたら何か一つ…」誰もが、実現の可能性を信じて目的物に突進していく。経験したいことしなければならないことは山ほどある—ここに登場した若者は、成人の才一歩をこうのべている。

中味のある大人に

日産吉原　石原邦子（三ツ沢）

〝成人日本〟そんな見出しの新聞を読んだとき、おやつとその記事に引かれた。

昭和四十年の訪ずれと共にいよいよ私もおとなの仲間入りなのだと…。戦後の混乱した状態のなかでの、親の苦労をよそに、一人で大きくなつたような顔をしているのであるから、ご苦労なしも良い所。

そんな甘い考えの中にもこうして成人式を迎え、祝福される事に感謝せねばならない。

〝若い〟ということ、それはすばらしい財産だと思いませんか……。

私たちはそれなりの気構え、ファイトを持つて、社会生活にのぞもう。たんに選挙権を得るのではなく、そして成人だということでおとなとしての存在を押し売りすることのないようにどんなにスピード化した世の中にあつても、自分を見失うことのないように、毎日を過したい。

体当り精神で

静岡銀行　青木千世子（依田原四）

〝生きる事は、呼吸することではない。何事かを成す事である〟とか。成人としての今日、思はこの言葉をより大切にしたいと思うただ真剣に何事かを成している姿、そして成し得たあとの休息には、清らかな喜びがあります。

私たちの日常の勤労のあとにも、このささやかな幸福はあるのです。その日を人生の最善の日とするよう一日一日を努力し、他人の考えに惑わされず、自己の考えに自信をもつ、そんな青春を送りたいものです。

成人としての私たちにかけられた期待は大きい。その期待が大きければ大きいほど、体当りして、自分の力を試してみようと、私の小さなエネルギーは大きく燃えあがるのです。

たとえ結果は失敗に終つたとしても、やつたことの体験は自分のものです。

〝若いんだ。あたつて砕けろ〟そう信じ頑張ります。

ひと様の辞書になれるよう

市役所　水口三枝子（中里二）

「成人の日をむかえ、喜びにあふれた顔、顔……こんなとき人生の幸福を思う。私は十八歳、あと二年で成人である。その日のために、二十歳の若人の顔を深く心に刻んだ。彼らは今日のために困難に打ち勝ち荒波をのりこえてきたのだ私も彼らに続かなくてはならない。明日からの彼らはまた未来のために新しい困難にぶつかつて生きるであろう。私も生きなくてはならない……。私がハタチになつたとき、どこかの、だれかの辞書となれるように」

これは私が十八歳の目から見た成人式の雑感です。そして私は現在ハタチになりました。辞書になつていなければならないのです。

でも社会人として生きること、辞書になるということは、本当に難しいことだと痛感しました。高校の温室の中でみた社会は、漠然としたもので、実社会へ出て、その偉大さに驚き戸惑いました。しかし自分の小さな存在を見い出したということ自体が進歩したのだと、まだまだ辞書はうすつぺらです。でも表紙だけの辞書にはなりたくない。

おかあさんありがとう

家事　畑千賀子（和田町一）

十代が終つて〝成人〟というレッテルみたいなものが私の手に渡されたとき、思わず涙ぐんでしまつたお母さん—その姿は、今日までわが子を育てあげた満足感と、亡くなつた父の思いが果せたことで安心しきつている。

〝成人した者は稚心を去つて将来を固めよ〟

私も成人の日を機に、悩み何でも反抗的な態度をみせる半おとなの生活から、一歩前進して〝世の中が認めてくれる〟おとなの動行に心掛けるつもりです。

一月十五日、私たちがめでたく成人の日を迎えられることを、母に感謝するとともに、市民の皆様に深く感謝します。

そして私の晴れ姿もみることができないまま亡くなつた父に「お父さん、あなたの分まで幸わせになつて見せます」と誓わずにはいられないのです。

早く一人前にならなきゃあ

日産吉原　望月茂彦（依田原四）

いつの間にか二十歳になつてしまつた。

〝俺もトシをとつたなあ〟などというと、世のじい様、ばあ様方にお叱りを受けるだろうか……。

おふくろは「おとなになつたもんだ」と言つて笑う〝おとなになつた〟なるほどそうかなあと思う、しかし実感がわかない。

それはそうだ、成人式を迎えたからといつて、昨日までの自分とまるで違つた自分になるわけではない。

でも一つだけ言えることがある、〝心が新たになつた〟ということです。おとなとして目覚めた、いや目覚めかけたというところかな。正確には〝心が新たになりつつある〟というところかな。

一人前になつた、と人はいうが俺はそうは思えない一人前になつたのはトシと身体だけで、知能の方はどうも……。だから俺は言いたい〝一人前にならにやあいかんな〟と。

仕事についても然り、人間としても然り。まず社会人として一人前になれるよう、今日この日心を新たに努力してまいります。

〝前進あるのみですよ〟

「写真をとるですか、よわい、よわい…」笑いながらカメラに肩すかしをくれたのが、荒田島岳南鋳造所に勤め、ことし成人をむかえる山形県生まれ、工藤茂君の開口一番のあいさつである。

工藤君が岳南鋳造へ顔を出したのはいまから五年前という。社長の増田茂さんは素顔の工藤君をこう語る「とにかく愉快な青年ですよ、彼から笑いをとつたら何が残るかな……私のところはいま二十八人の従業員が社のため、わが身のために一つの信念をもつて仕事をしてくれています。もちろん工藤君もその中の一人です。私が彼に惚れこんでいるのは若い者とは思えないド根性をもつていることですよ。どんなにつらい仕事でも決して泣き顔、ぶつちょゾラを見せないことです。東北魂しいというのですか」増田さんのことばを裏付けするかのように、先輩の加藤さん、早坂さんも工藤君をべたほめ。

当の工藤君はすまし顔で「二十歳になつたつて別に昨日と変りないですただ前進あるのみですよ〟歳月は人を待たず〟という格言もあるでしよ」

てれくさそうに話すハタチの若者も、固く冷い鉄をみつめながらいつか両手をにぎりしめていた。

写真は成人の抱負を語る工藤君（岳南鋳造所で）

先輩として一言

まず健康で

市場町　今泉春枝

成人になられた皆様方おめでとうございます

いよいよ一社会人としてみとめられ、選挙権も与えられ、発展して行く社会を構成する仲間の一員としてあなた方の力と知恵を発揮できるわけですが、同時に責任と使命も大きいことを自覚しなければならないと思います。

私も母親として、あなた方にお願いしたいことは、まず健康であるということ、身心の円満な健康は弾力性と新鮮さがあるわけで、若さにあふれた健康美をいつまでも失なわないでもらいたい　また一方周囲の人々に愛される人であり　つねに思想する生活のできる人こそ現代を、そして将来をになう若者たちの新しい生き方であると考えます。

おとなになつたからといつて、すぐ何んでもできるものではありません。一つ一つ学んだことを積み上げまた反省することを忘れずに、明るい社会を築いていただきたいと思います。

矛盾と闘え

西国窪　落合巳代治

みなさんは社会へ出て、きつと多くの矛盾に突き当つていることと思います。

若い人々の値打ちは、この矛盾と対決するか、妥協するかによつて評価されると思います。

私は若さに似合わぬ〝リコウ〟な人をけいべつします、勇気をもつて矛盾と闘う青年の純粋さに魅力を感じます。

× × ×

みなさんは、きょうから選挙権を得ました。私は新しく生まれた有権者が、立派にその権利を行使することに大きな期待を寄せています。公明選挙は〝百年河清を待つ〟に等しいと悲観的な見方もありますが、しかし毎年生まれる有権者が正しい選挙を行なうことができるならば、理想選挙はやがて達成されることでしよう。世の中を改革する原動力はいつも青年であることは歴史の示す通りです。

× × ×

みなさんは、成人を契機として、人生のいろいろな試練にぶつかることと思います。その最初の試練は結婚でしよう。言うまでもなく、結婚は一生の運命を左右します。成人の日に当つて、まず才一に頭に浮ぶのは成人する一七一〇人が一人残らず幸福な結婚を、ということです。

両親や先輩の意見もきいて、慎重に真剣に相手を選択し、悔いない結婚をしてくださるよう祈つています

人間味のある生活を

中里一　池田かつ

富士登山を目指す一女性が、カメラを車中にわすれた—これをある青年が駅にとどけた—駅ではカメラを忘れた女性の心中を察して山中湖畔にある警備隊に連絡した—同隊では登山中の女性にその旨を連絡した—受け取つた女性は、この親切に感激して、金一封を青年に贈つた—青年はそのお金を知恵おくれの子供の施設に寄付した。

この記事を読んで、私はあたたかい美しい心のつながりに胸をうたれました。

このリレーは、一青年のあたたかい思いやりから始まつた行動が、つぎつぎとリレーされ、じつに明るいふん囲気をかもし出しています。

〝私たちの住む社会〟それは複雑で、つねに動いている。科学の進歩と同時にインスタント化の傾向も強い。その中にあつて、失われがちな心の豊かさ、あたたかさを若い皆様に発揮していただき、正しい判断と行動によつて、地域の浄化につとめていただきたいと思います。

初心を肝に

市場町　萩原守

ある正月、ご挨拶にと伺つた息子の勤務先の社長さんが、ひつそりとした広い工場の荷物の間から、作業衣のままで顔を出されたのでまず驚いた。

苦難を乗り越えた、太いひたいの線、笑いの中にキラリと光る澄んだ瞳、張りのある声、火の気のないストーブを前にして心温まる数々の話しでした。

息子の心の指針にと伺つたら「どうかくれぐれも初心を忘れないように」という言葉でした。事業一途に生涯をかけ、働く者の幸わせを心から願つている老社長の言葉だけに、新しい金言として正月を迎えるたびに心をゆすぶられる。

〝初心〟そこには夢を求め、開拓してやまない逞しさと力がある。この若さこそ人生の花であり、何ものにもかえがたいあなた方の宝です。どうぞ長い人生に悔いを残すことなく、良心の声なき声にジツと耳を傾け、真に意義ある生き方をお願いするものです。

編集後記

この頁を企画するにあたり成人者、父兄の快いご投稿ありがとうございました。これからも市政へのご意見ご希望をお寄せください。

（市長公室広報係）

〝無線広報〟のお知らせは毎日午前7時45分と午後4時45分。